

令和3年度(2021年度)第1回 函館市地域支え合い推進協議体 会議概要

■ 日 時

令和3年(2021年)8月24日(火) 18時30分～19時45分

■ 場 所

函館市役所 8階大会議室(東雲町4番13号)

■ 議 事

報告

- ・協議内容に合わせた協議体構成メンバーの追加について
- ・令和3年度のくらしのサポーター養成事業について
- ・函館市の現状と助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて

■ 配布資料

- ・会議次第
- ・資料1 協議内容に合わせた協議体構成メンバーの追加について
- ・資料2 令和3年度のくらしのサポーター養成事業について
- ・資料3 函館市の現状と助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて

■ 出席委員(9名)

阿知波委員, 池田委員, 川上委員, 河合委員, 能川委員, 林(珠)委員,
林(優)委員, 丸藤委員, 村岡委員

■ 傍 聴

1名

■ 市職員(事務局)

地域包括ケア推進課 小棚木課長, 岩島主査, 古口主任技師, 田畑主任主事
高齢福祉課 黒田課長

■ 会議要旨

池田会長

それでは報告「協議内容に合わせた協議体構成メンバーの追加について」に関して、市から説明願いたい。

田畑主事

(資料1「協議内容に合わせた協議体構成メンバーの追加について」に基づき説明)

池田会長

意見等はあるか。

(特に無し)

では特に無いようなので、次の報告「令和3年度のくらしのサポーター養成事業について」に関して、くらしのサポーター養成事業を市から委託を受けて実施している社会福祉協議会の阿知波委員から説明願いたい。

阿知波委員

(資料2「令和3年度のくらしのサポーター養成事業について」に基づき説明)

池田会長

コロナ禍でなかなか人が集まってのイベントは実施しにくい状況ではあるが、研修はどのようなことに気を付けながら実施したか。

阿知波委員

新型コロナウイルスの感染予防についてだが、まず研修の定員を通常よりも少なくした。また、参加者の方には毎回検温と手のアルコール消毒をお願いし、座席に関しても1本の机に2人、3人掛けとしていたのを、1人掛けとした。さらに休憩時間には十分な換気も行った。

池田会長

資料を見ても交互に座っていることがわかる。委員から質問等はあるか。

(特に無し)

では特に無いようなので、次の報告「函館市の現状と助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて」に関して、第1層生活支援コーディネーターの丸藤委員から説明願いたい。

丸藤委員

(資料3「函館市の現状と助け合いを広めるための全市的な地域づくりについて」に基づき説明)

池田会長

今説明のあったとおり、コロナ禍の中活動がうまく進んでいないが、進めていかなければ「おやじ世代による新しい活動の場づくり」が遅れてしまう。このような状況下ではあるが、どのように進めていけばよいか、アイデアやアドバイスはないか。

林（珠）副会長

コロナ禍の状況下では様々な地域活動が縮小傾向にあるのは事実だが、町会の考え方によっても活動するかしらないかが分かれている。第2層生活支援コーディネーターとしてこの点のリサーチはしている。

「おやじ世代による新しい活動の場づくり」については、男性のステップアップ研修受講生だけでは弱いかもしれないという点がキーになると思う。地域の活動を展開していくには、自分たちの思いだけでは駄目で、実際に地域に住んでいる方がどう考えているのかが大切。「コロナ禍だからできないよね」ではなく、「この状況下でもできることは何だろう」と発想を転換していかなければならず、それが第2層生活支援コーディネーターの業務だと思う。

当センターの管轄で成功している北浜町会は意識がとても高く、「コロナ禍だからといって黙っていても何も進まない」という意識が醸成されている。このような意識を持つキーとなる人が何人か出てこないで「コロナ禍だからできないよね」で止まってしまっているのではないかと思う。一回くらい集まれば、そこでキーになる人が出てくる可能性がある。

北浜町会の例では、包括から「今集まるのは無理なのかな」と投げかけたところ、やる気のある地域なので、「皆で足並みをそろえては駄目だ、人数限定でもいいからやらなければならない」との意見が出たので、11月に地域ケア会議を実施する方向で話を進めている。

また、地域ケア会議を足掛かりにしてできた町会や民間企業の方が参加する活動団体は、防災に関する会議を毎月開催している。最初は大きな防災訓練を地域で実施できないか検討していたが、「コロナ禍では難しい」となったので、今できることをやろうと、地区をいくつかに分けて防災に関するビデオづくりを手掛けている。やはりキーとなる人を見つけると取組のスピードが上がると思う。

池田会長

まずは集まって核づくりをしなければならないのではないか。

丸藤委員

集まろうと提案しても、「今はちょっと」と抵抗感がある人が多く、断られてしまう。ワクチンを打ち終わっている年代でもあるので、そろそろ大丈夫かなと思っていたが、最近また新型コロナウイルス感染症の罹患者が増えてきたので、その点を気にしているのではないかと思う。また、リモートを皆で使えればよいのだが、使えない人が多い状況である。

池田会長

数名で集まって打ち合わせするくらいなら可能ではないか。何か動きを取っていかないと理想だけで終わってしまう。

林（珠）副会長

現在何人位が参加しているのか。

丸藤委員

10人位参加している。

林（珠）副会長

10人位いれば、2・3人でも1時間程度なら集まって話せるという人がいるのではないか。集まって話せば、実際の活動につなげるための具体的な準備ができるのではないか。

池田会長

河合委員，居宅連協では集まって話しをする場面はあるのか。

河合委員

コロナ禍の状況で，皆で集まって話ができている状況であったが，ようやく今年からZOOMを使ったリモートでの話し合いができるようになってきた。

池田会長

ZOOMやリモートの話が出てきたが，私も慣れるまで苦労した。年を取るとついていけない。会議をやっても相手の表情も見えないので，あまり好きではない。若い世代ならいいかもしれないが，おやじ世代は難しいと思う。

林（珠）副会長

課題があって皆同じ方向で話し合うならZOOMでもよいと思う。地域づくりや地域活動はある程度の熱量も必要となるので，ZOOMでは難しいと思う。だから少人数でも顔が見える状況で話しができる機会があったほうが良い。

池田会長

能川委員このような状況ではあるが麻雀サークルの活動はどうなっているか。

能川委員

金曜と日曜に開催している平均年齢75歳くらいのサークルであるが，所属する40人のうち半数位の出席があり，最近の傾向として単身者の参加率が高い。おそらくコロナ禍のため，家に一人であるよりはと思っているのではないか。

また，このような状況下ではあるが，社会福祉協議会から福祉施設に訪問してくれそうな団体がありそうか調べてほしいとの依頼を受けたことから，踊りや演奏等を行って

いる団体20程度に確認したところ、16団体から訪問できると回答があった。役員会ではこのような状況下では練習もできていないので、訪問できる団体は少ないだろうと考えていたが、このような状況下でも練習を行っているようである。先ほどの麻雀のサークルとも共通するが、コロナ禍の中でもなんとか皆と会いたいと思っているのではないかと。

池田会長

おやじ世代の取組も何か工夫し、2、3人でも集まって、進めていかなければならない。ストップしたままでは、後退していく可能性もある。

村岡委員

民生委員の集まりも、コロナ禍の中でできていない。自分の地域はワクチンを打っている方が多いので集ってやっているが、それより大きい集まりは上からストップがかかるのでやる気があってもできない。

また、自分は350世帯位担当しているが、今月で単身の2世帯の方が亡くなった。単身世帯の方で亡くなっている方が少しずつ増えてきているようである。

川上委員

在宅福祉委員と民生委員、町会は点となっていて連携できていないので、線となって連携する必要があると思う。

包括とは連携できており、若手が中心となって取り組んでいる除雪支援など、色々な共同事業をやっている。

阿知波委員

在宅福祉委員は社会福祉協議会で実施しているので、何かあれば相談してほしい。

林（優）委員

逆に当センターは定時総会や会議に関して大人数で集まってほしくないと考えているが、意外と集まってくる。会議を開催する際には、大人数にならないようにしている。今まで100人程度が参加していた会議では、人数を少なく、回数を多くして開催しているが、ほとんどの方が参加する。意外とワクチンを打っている方は安心感があるのかもしれない。

池田会長

少ない人数でもいいので集まって、話し合いを進めてほしい。他に何かあるか。
(特になし)

では、これで議事を終了したい。進行を市にお返しする。

岩島主査

これをもって、函館市地域支え合い推進協議体の今年度第1回目の会議を終了する。